

水と緑の公私空間論に関する研究 その3 -兵庫県三田市のオープンガーデン-

公私空間 オープンガーデン コミュニティ形成
市民参加 協働 兵庫県三田市

正会員 ○ 上山 肇*
正会員 河島 敬**

1. はじめに

オープンガーデンは、看護や医療、庭園保護への募金活動を目的にイギリスで始まった。近年、我が国においても個人の庭を一般の人に公開するオープンガーデン活動が広がっている。

日本におけるオープンガーデン活動については、1997年頃より始まり現在に至っているが、これらの活動は地域内外の交流やコミュニティ形成に大きな役割を果たしているのではないかと考えられる。

本研究ではオープンガーデン活動の取り組みが盛んな兵庫県を事例に、特に積極的に活動している三田市における取り組みについて、自治体と三田市グリーンネットへのヒアリングをとおして、オープンガーデンの実態を見ながら、緑を活用した公私空間のあり方について探ることを目的としている。

オープンガーデン活動については、行政の支援を受けて行っているところが多いが、本稿で取り上げる三田市グリーンネットは、活動団体として独自に行っているところに特徴がある。

2. 研究方法

調査は、平成30年2月27日～3月1日に兵庫県三田市を訪れ、市役所へのヒアリング及び三田グリーンネットへのヒアリング、オープンガーデン設置者へのヒアリング及び現地視察を行ったものである。

内容については以下のとおりである。

(1) 三田市へのヒアリング調査

市役所の担当部署である地域振興部地域整備室公園みどり課・都市政策室都市計画課、市民生活部市民協働室、まちづくり協働センター等にヒアリングを行った。特に公園みどり課ではオープンガーデンに関する今までの経緯や行政としての考え方、今後の可能性について伺った。

(2) 三田グリーンネットへのヒアリング

副代表の黒木長通氏、会計担当の高木繁嘉氏にオープンガーデンの取り組みの経緯と現状についてヒアリングを行った。

(3) オープンガーデン設置者へのヒアリング及び現地視察

オープンガーデン設置者3名に対し現地視察をしながらヒアリングを行った。

3. 調査結果

市役所へのヒアリングや三田グリーンネット及び設置者へのヒアリングをとおして次のことがわかった。

3-1 三田市へのヒアリング調査からわかったこと

オープンガーデンの取り組みの経緯について伺えた。平成12年に4庭でオープンガーデンが始まったが、平成25年にオープンガーデンを三田まちなみガーデンショーから独立し、三田グリーンネット主催で開催されるようになった。現在では独立して運営している。参加している庭園数については、多い時で125あったが、平成29年度は81であった。

3-2 三田グリーンネットへのヒアリングからわかったこと

-事務局（副代表、会計担当）へのヒアリングから-
オープンガーデンが三田市・三木市、神戸北地区の広域に渡って行われている。三田グリーンネットは平成12年11月に設立され、現在個人会員131名・法人会員22社で構成されており、参加者は単に庭自慢ではなく、いらした方々との交流を求めている（図1）。

活動費については基本的に独自にまかなっており、平成29年度の場合、主要な収入源となっているパスポートが

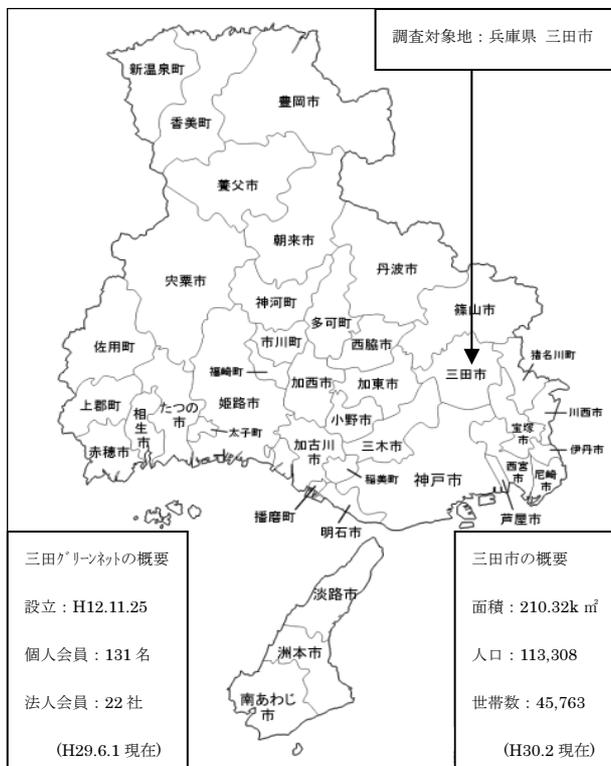


図1 三田市の位置と概要、三田グリーンネットの概要

約 2,000 部(300 円/1 部)の売り上げがあった(300 円のうち 100 円はチャリティー募金)。経費はオープンガーデンの参加費や広告料(約 40%)などでどうにか独自にまかなっているが、できれば行政に補助を含めた側面支援をしてもらいたいとの思いがある。

毎年 5 月に行われているオープンガーデンの実施に関しては、平成 29 年度の参加者は三田市内で 39%あり、兵庫県外からは 29%であった。平成 29 年度は外国(台湾)からの参加者もあり、活動が世界に知られるようになってきている。その他、緑化活動として新三田駅南ロータリー Welcome Garden、フラワータウン市民センター前の植栽管理を行っている。

課題としては、①行政の協力(支援) ②スタッフの高齢化 ③持続性 といったことがある。

3-3 オープンガーデン設置者へのヒアリング及び現地視察からわかったこと

(1)三田市郊外 小林誉子邸(大原 1532-12)

毎回 100 人を超える方がいらっしゃり、やりがいをもたれている。県外から来る人は、自然や緑によって癒されるといった感想をもつ方が多い。

今ではほとんどグリーンネットが運営を独自に行っているが、「行政にできることもあるのではないか」という考えをもたれている。



写真 1(左) 小林邸のオープンガーデン(小林氏撮影)

写真 2(右) オープンデッキ(小林氏撮影)

(2)カルチャータウン 吉村秀人邸(学園 6-8-5)

和と洋の庭が楽しめ、縁側でゆっくりくつろげる庭を開放しており、句会も併せて行うなど工夫した取り組みを行っている。楽しみながらやりがいをもって取り組んでいる。もっと多くの方々にいらしていただきたいという希望がある。



写真 3(左) 吉村邸のオープンガーデン 1(吉村氏撮影)

写真 4(右) 吉村邸のオープンガーデン 2(吉村氏撮影)

(3)フラワータウン 高木繁嘉邸(弥生が丘 3-3-12)

当初グリーンネットからの勧めで参加した。場を提供することにより、多くの人とコミュニティが育めることに喜

びを感じている。バラの庭でコンサートを行っている。高木氏は、来ていただいた方と情報交換がしたいという強い思いがある。



写真 5(左) 高木邸のオープンガーデン(高木氏撮影)

写真 6(右) オープンガーデンでのコンサート風景(高木氏撮影)

4. おわりに

ここで取り上げた三田グリーンネットのようにオープンガーデンを独自で運営しているところは全国的にも珍しいが、緑の公私空間について考える時に、オープンガーデンのような私的空間がコミュニティ形成も含め、都市環境に果たす役割・可能性が非常に高いことがわかる。

公私空間という観点からすると、オープンガーデンのような個人の私的空間を開放することに難しさがある一方、今回の調査における参加者は、そこに集う方々との交流に喜びを感じており、このことから市民間の交流・コミュニティ形成に大いに寄与していることが伺える。

今後の課題としては、①参加者の確保も含めた持続性 ②持続性とも関連するが活動を継続するための人材の育成(参加者、運営者) ③資金面も含めた行政による側面支援 といったことが挙げられるが、そうしたことに対処するためにも、市民・行政・民間(団体等)の協働による仕組み(行事・イベント含む)の工夫・構築・改善の必要性がある。

【関連研究】

- 1) 河島敬・衣川智久・村田真穂・上山肇: オープンガーデンがコミュニティ形成に与える影響-長野県小布施町を事例として-, 2014 年度日本建築学会関東支部研究報告集 II, pp. 429-432, 2015. 3
- 2) 河島敬・上山肇: 日本におけるオープンガーデン活動に関する研究-活動団体と実施地域及び活動参加者数に着目して-, 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東), pp. 909-910, 2015. 9

【参考・引用文献】

- 1) 三田グリーンネット: The Green Pages I (2002. 10), The Green Pages II (2005. 3), The Green Pages III (2009. 10)
- 2) 三田グリーンネット: The GARDEN STORY-オープンガーデンの庭から-, 2017. 4
- 3) 三田グリーンネット: オープンガーデンパスポート「Charity Open Garden 2017, 2017. 5

*本研究の調査にあたっては平成 29 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)を使用している。(研究科題名: 持続可能な都市空間のための公私計画・マネジメント論の構築及びデザイン手法)

* 法政大学大学院 政策創造研究科 教授 博士(工学)
**法政大学大学院 政策創造研究科 修士課程

* Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng.
** Graduate Student, Hosei Graduate School of Regional Policy Design